

コシアブラの栽培方法について

佐久地方事務所 林務課主任 田口 雅弘 たくち まさひろ

要 旨

近年、森林資源の有効利用や里山林の見直しなど森林と人との関わり合いが、注目されるようになってきました。そこで身近にある里山の森林を整備し、そこにキノコや山菜などの特用林産物を生産することは森林の健全化が図られ、かつ人々が再び森林に目を向ける有効な手段であると思います。そこで、まだ栽培実績が乏しい山菜の一つコシアブラに目をつけ栽培指針を探るべく植栽試験を始めました。

はじめに

コシアブラは、ほぼ県下全域に分布されており、食材としての知名度も除々に上がってきています。しかしコシアブラは人工植栽の実績もまだ確立されていないのが実情です。

そこで、臼田町で山菜、きのこを生産及び集出荷している組合「星の町うすだ山菜きのこ生産組合」の協力を得て植栽試験を行ないました。また当組合はコシアブラの植栽を5年前から実験的に行っており、その経験からの植栽と栽培のポイントについても述べてみたいと思います。

1 植栽試験の概要

南佐久郡臼田町の森林、畑地（標高750～800m）へ、平成10年4月及び6月に石川県七尾市から取り寄せたコシアブラ苗（写真2）3年生、5年生、7年生を植栽しました。概要は表1及び写真3～8のとおりです。

表1 植栽試験地の概要 (単位：本)

	3年生	5年生	7年生	計
林 地		1,150	150	1,300
畑 地	80	240	80	400
計	80	1,390	230	1,700

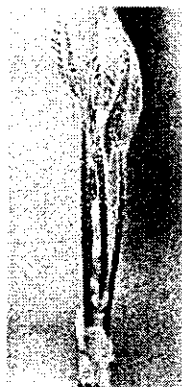


写真1 コシアブラの若芽



写真2 石川県から取り寄せたコシアブラの苗木



〔写真3〕 4月 林地での植栽



〔写真4〕 4月 林地での植栽



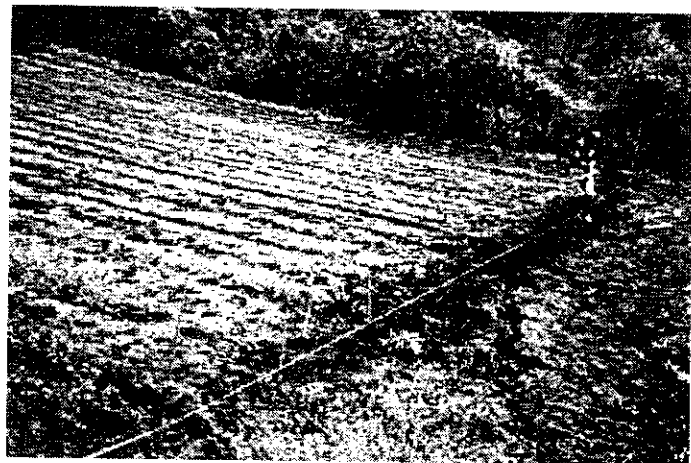
〔写真5〕 林内上層木 アカマツ・カラマツ
混交林 500/ha 仕立



〔写真6〕 6月 林地での植栽



〔写真7〕 4月 畑地での植栽



〔写真8〕 畑地での植栽

2 試験の結果

平成10年4月に植栽したコシアブラ苗の活着率を平成11年6月に調査してみました。調査結果は図1のとおり、林地の活着率が80%以上と好成績を上げる結果となりました。また、林齢別では苗齢が若い方ほど活着率が良いという結果（図2）となりました。

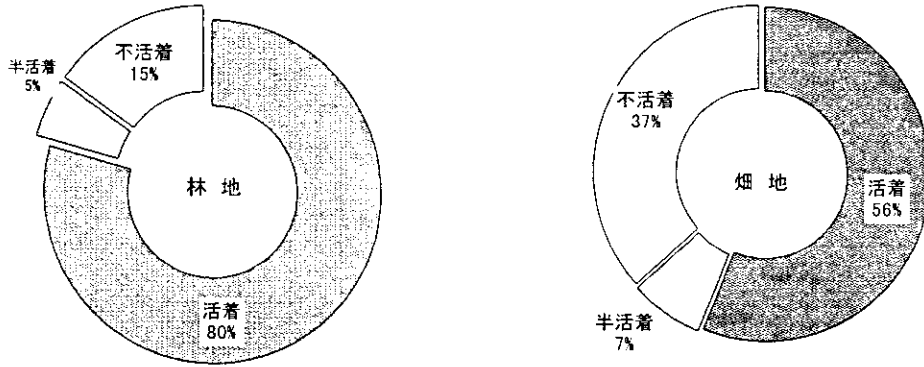


図1 林地・畑地別活着率

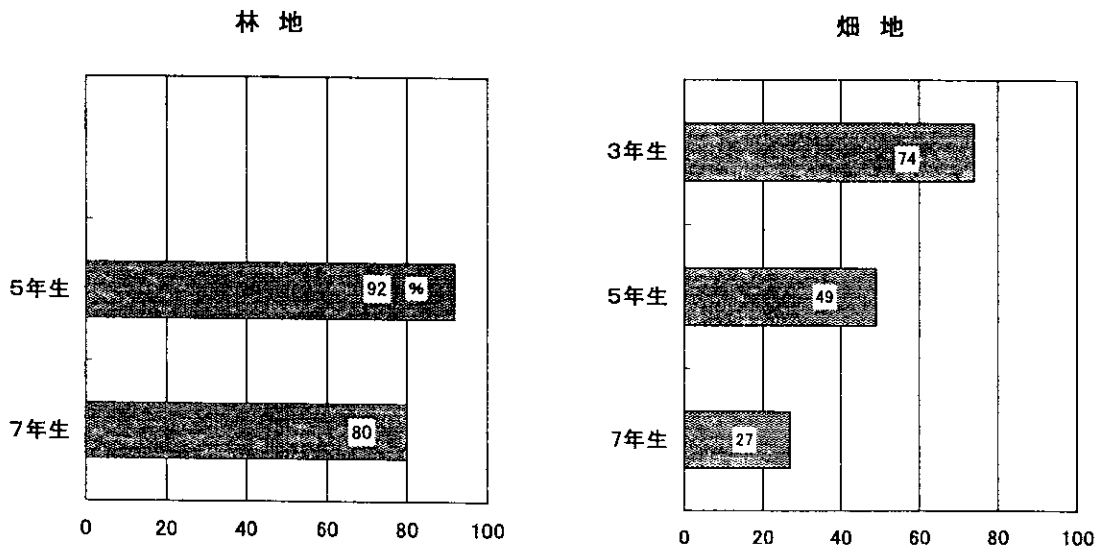


図2 苗齢別活着率

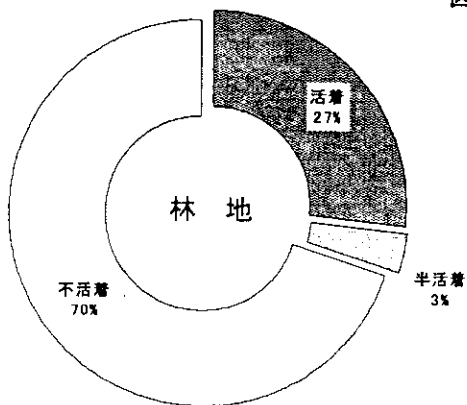


図3 6月植栽活着率

また、林地において6月中旬に植栽を試みたところ、図3の結果のとおり活着率は27%と低い結果となりました。

3 まとめ

以上の植栽試験の結果と以前より栽培を試みている「星の町うすだ山菜きのこ生産組合」の経験から山採り・植栽及び栽培のポイントは次のことが言えようかと思われます。

山採りのポイント

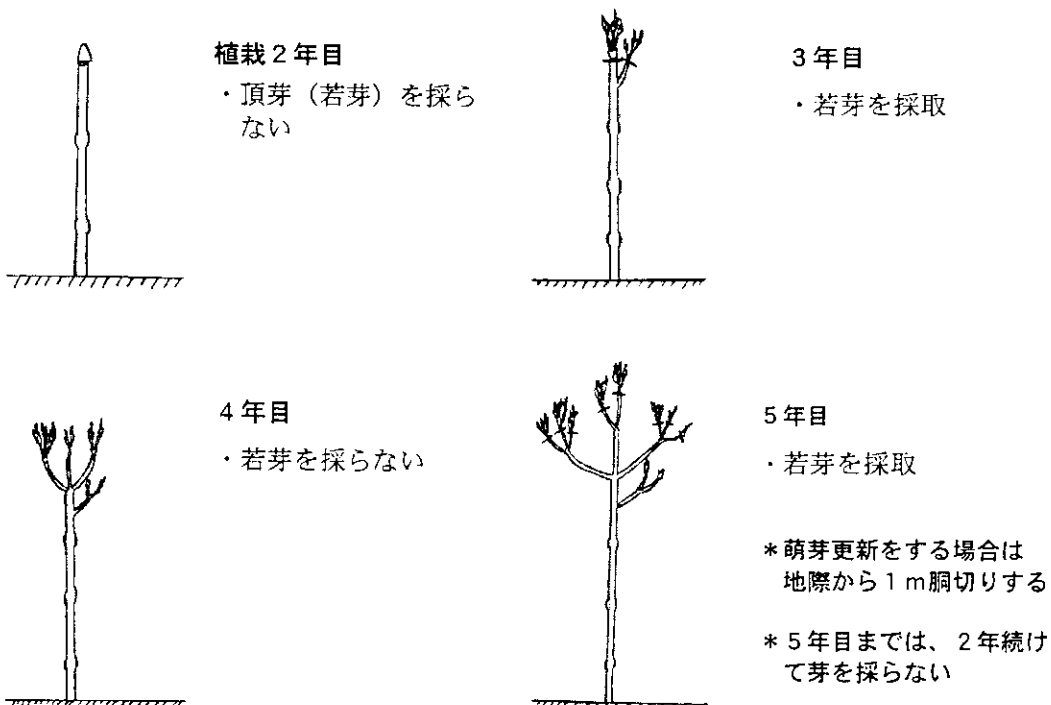
- ・採取時期は4月初旬～中旬または秋
- ・人の背丈までのものを採取
- ・中心根（ゴボウ根）を傷めない
- ・根腐れをおこしやすいので、水に浸すのは3日まで

植栽ポイント

- ・4月中に行なう
- ・アカマツ等の常緑針葉樹下がベター
- ・半日陰の場所が良、西日が長時間当る場所は不可
- ・根は丸めなくて、平に伸ばし土を約3cmかぶせる
- ・植栽間隔は1m以上離す（後の作業を効率良くするため）
- ・植栽した後、十分な散水を行なえばベスト

栽培のポイント

栽培については、当地域での方法の一例を示してみました。



おわりに

栽培技術がまだ確立されていないコシアブラですが、植栽場所、植栽時期を間違えなければ、栽培は可能と言えます。ただ栽培試験を始めて日が浅いため、しっかりとした技術はこれからと思われま

す。また、地域によりまだ名前も知られていない状況であり、これから消費者、市場へのPR販売等の取組みもやっていかなければなりません。